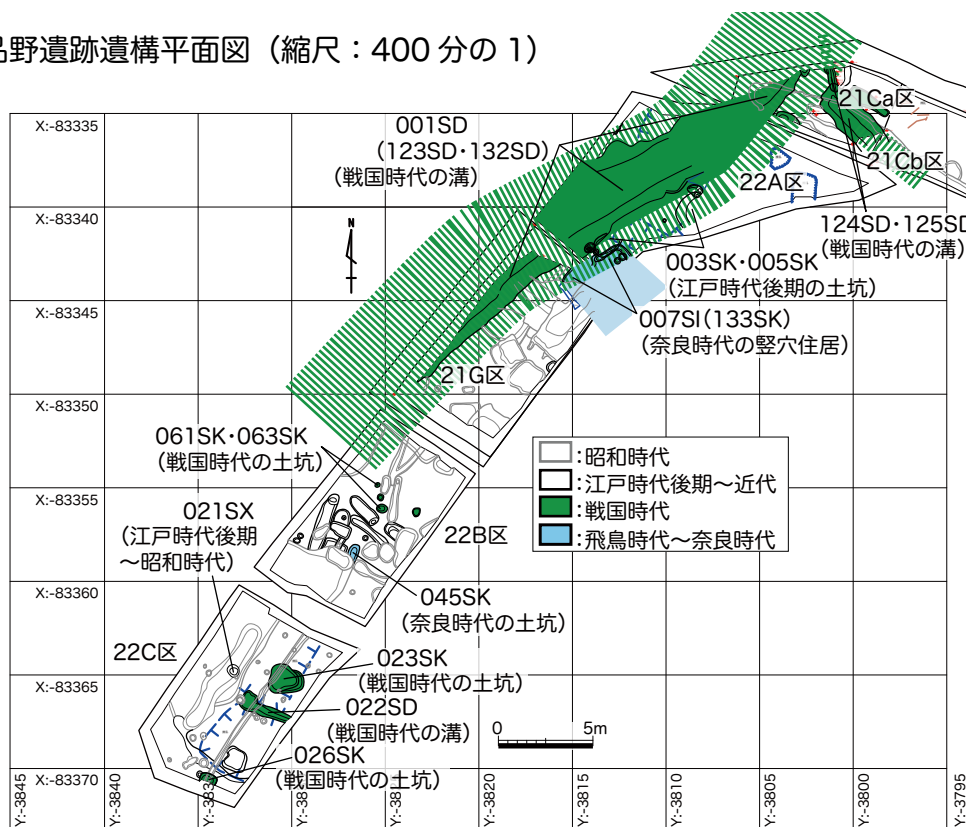


下品野遺跡遺構平面図（縮尺：400分の1）



22A区全景、南上より、南北に戦国時代の溝がはしる



戦国時代の区画溝 001SD (22A区)、北東より

3. まとめ

飛鳥時代～奈良時代においては、昨年調査を行いました品野町六丁目交差点（以下「交差点」）の北側（21A区）で、東西方向の溝（075SD）や土坑（087SK・089SK・112SK）が確認されております。今年は交差点南側（22A区）において、竪穴住居が確認されたことにより、集落が南側に広がっていたことを明らかにできました。

戦国時代では、昨年調査しました交差点南側の21Ca区と21G区を繋ぐ溝22A区001SDを確認することができました。この溝は、幅が5mを超える断面箱型になる溝と判明しました。またこの溝の東側にも022SD（22C区）のように内側を区画する溝や土師器の皿、縁釉小皿（えんゆうこざら）が重なった状態で見つかった土坑026SK（22C区）が発見され、戦国時代の区画溝の南東側に居住域が広がっていたものと考えられます。

江戸時代後期では、戦国時代の溝が埋まった後に土坑や柱穴（22A区）が確認されました。現在の国道248号と県道22号瀬戸環状線にそって江戸時代後期～昭和時代の水田跡がみつかっており、その南東の山側は家屋などがある宅地になっていた可能性があります。

発掘調査におきましては、近隣沿線住民の皆様と関係機関の皆様には、ご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございました。



戦国時代の溝 001SD の遺物出土状況 (22A 区)、北より



戦国時代の溝 001SD 出土巻貝 (22A 区)、西より



飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居 007SI (22A 区)、北より



江戸時代後期の土坑 003SK (22A 区)、南東より



22B 区全景、南より、
奈良時代～江戸時代後期の遺構がみられる



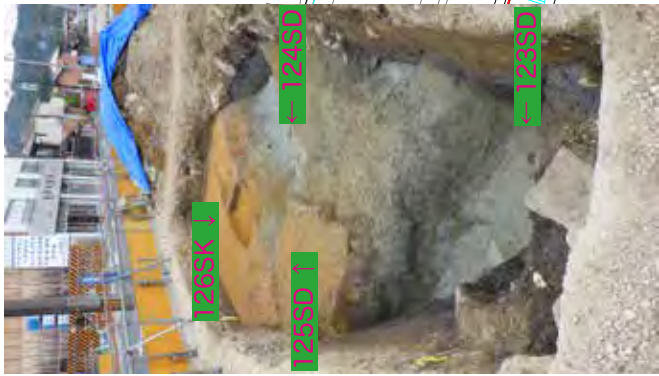
奈良時代の土坑 045SK (22B 区)、北より



22C 区全景、北上より、
調査区の東側に戦国時代の遺構がみられる



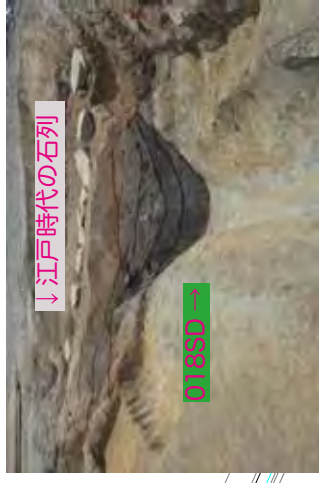
戦国時代の土坑 026SK (22C 区)、北より、
土師器皿と縁釉小皿が重なって出土した



戦国時代の屋敷を囲む溝
123SD ~ 125SD
(21Ca区)、西より



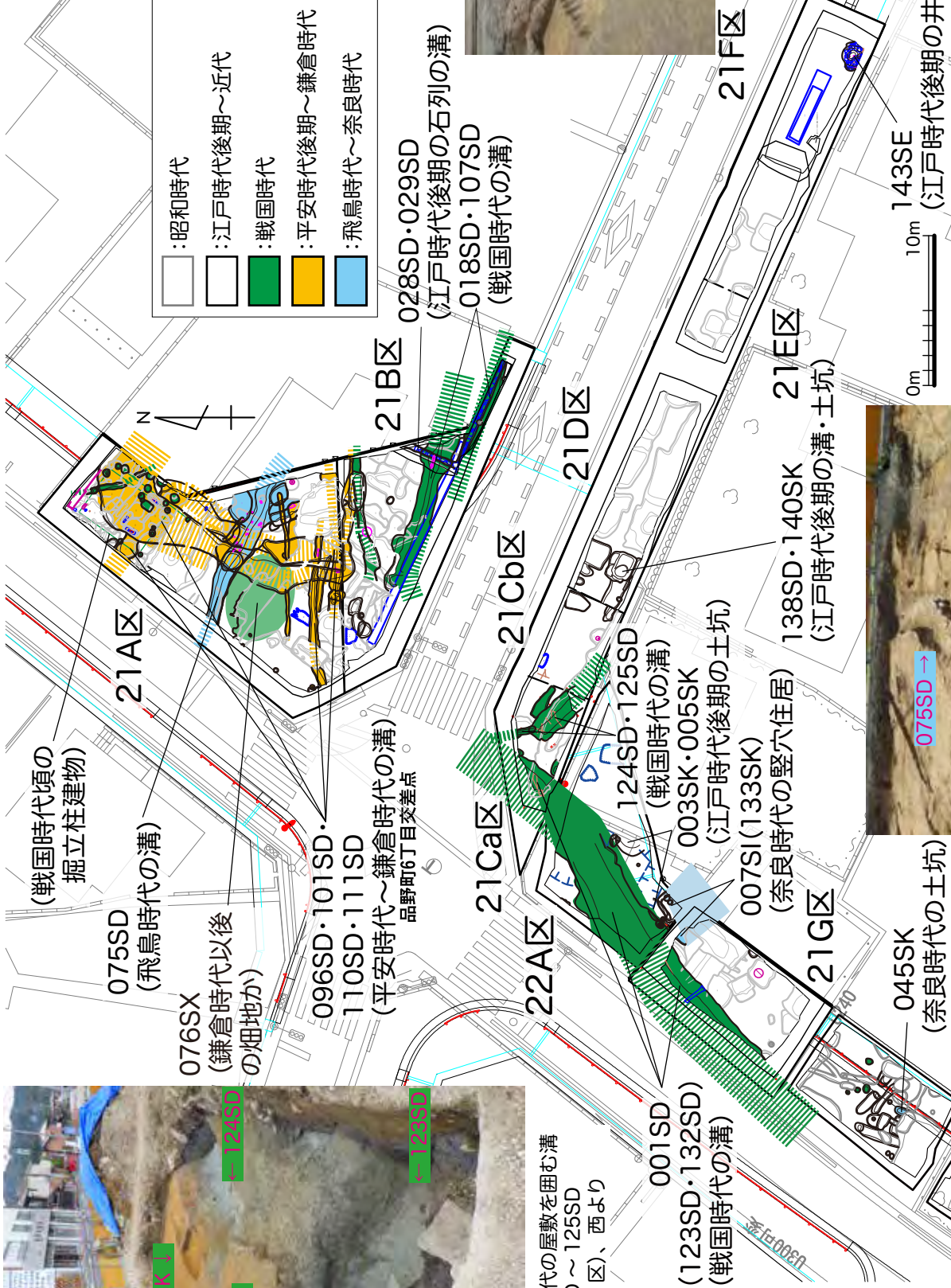
平安時代の灰釉陶器の皿出土状況
(096SD)、南より



戦国時代の屋敷を囲む溝
018SD (21B区)、西より



江戸時代後期の井戸 143SE (21F区)、北より



下品野遺跡遺構全体図
(縮尺：400分の1)



奈良時代の溝 075SD、土坑 087SK・112SK、東より